

『資料』人文学部教員研究業績一覧（2004年4月～2005年3月）

〔日本文学科〕

岡本文子

「大村嘉代子」『日本女子大学に学んだ文学者たち』（共著）、翰林書房、7～18頁、2004年11月。

木谷喜美枝

「吉行淳之介『夏の休暇』」『解釈と鑑賞』、134～139頁、2004年4月。

「安房直子」『日本女子大学に学んだ文学者たち』（共著）、翰林書房、381～394頁、2004年11月。

「『一読三歎 当世書生気質』論—新しい小説を求めて(二)—」『和洋國文研究』第40号、19～27頁、2005年3月。

駒見和夫

『下総国府台—下総国国府跡の発掘調査—』（共著）、和洋学園、282頁、2004年8月。

「すべての人がいる博物館に向けて」『MUSEUMちば—千葉県博物館協会研究紀要—』第36号、2～11頁、2005年3月。

「文学系博物館小考」『和洋國文研究』第40号、67～76頁、2005年3月。

佐藤勝明

「元禄時代俳人大観（二十三）」『近世文芸研究と評論』66号、近世文芸研究と評論の会、105～131頁、2004年6月。（伊藤善隆・金子俊之・雲英末雄各氏との共同研究）

「元禄時代俳人大観（二十四）」『近世文芸研究と評論』67号、近世文芸研究と評論の会、105～131頁、2004年11月。（伊藤善隆・金子俊之・雲英末雄各氏との共同研究）

「“芭蕉”の誕生」『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、1～15頁、2005年3月。

「『猿蓑』冬発句考(六)—師走の世界—」『和洋國文研究』第40号、9～18頁、2005年3月。

塚本 宏

「全国大学書道学会作品展出品」四国大学、2004年11月。

鳥羽田重直

「漱石と子規と漢詩」『和洋國文研究』第40号、48～55頁、2005年3月。

三澤薫生（成博）

「『和訓栞』原本の復元(一)—見出し項目について—」『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、37～57頁、2005年3月。

〔英文学科〕

植松みどり

翻訳『ブラック・ヴィーナス』アンジェラ・カーター著、河出書房新社、2004年12月。

『Power on English Reading』東京書籍、2004年4月。

『Power on English Reading, Teacher's Manual』東京書籍、2005年3月。

「^ガ^ヴ^ァ^ネ^ス住み込み家庭教師の物語(1)『サウンド・オブ・ミュージック』マリアとガヴァネス」

『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、67～80頁、2004年7月。

「マジック・リアリズム序章—ワイマールとその光」『和洋女子大学英文学会誌』第39号、1～12頁、2005年3月。

門脇由紀子

「マリアの従順—ベネディクト会修道院の戒律」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』62～66頁、2004年7月。

木下裕昭

『English, English—Fundamentals of Learning English—』共著、朝日出版社、2004年4月。

「視覚と聴覚に基づく群化認識」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、1～33頁、2004年7月。

「アイルランドの言語事情」『和洋女子大学紀要』(人文系編)第45集、19～58頁、2005年3月。

黒田 誠

『アンチ・ファンタシーというファンタシー』近代文芸社、2005年3月。

注釈『Annotated Last Unicorn』ピーター・ビーグル著、近代文芸社、2004年9月。

「“ド”は髑髏の“ド”—ドレミの歌と天体の音楽と調性と影の思想」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、99～104頁、2004年7月。

「アンチ・ファンタシーというファンタシー 8」『和洋女子大学紀要』(人文系編)第45集、1～18頁、2005年3月。

「アンチ・ファンタシーというファンタシー(13) 荒唐無稽とアナクロニズムとペテン的

言説—『最後のユニコーン』における時間性と関係性の解体と永遠性の希求』『和洋女子大学英文学会誌』第39号、26～59頁、2005年3月。

小山太一

「イアン・マキューアンにおけるコミックの要素」『英語青年』3月号、738～741頁、2005年。

書評『ミドルセックス』ジェフリー・ユージェニデス著、『新潮』7月号、314～315頁、2004年。

書評『ガーネット傑作集Ⅰ、Ⅱ』デイヴィッド・ガーネット著、『新潮』10月号、246～247頁、2004年。

佐久間みかよ

「『サウンド・オブ・ミュージック』とアメリカンニューヨーク・エリス島から始まるトラップ一家のアメリカ」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、86～98頁、2004年7月。

「Peguot戦争の記述をめぐって—考察」『アメリカ初期学会ニューズレター』No. 44、1～3頁、2004年12月。

佐藤義夫

「トラップ家の幸せな家庭に忍び寄る影—全体主義の恐怖」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、81～85頁、2004年7月。

「『パリ・ロンドン放浪記』—「事実」と「虚構」」『和洋女子大学英文学会誌』第39号、13～25頁、2005年3月。

「オーウェルの乞食擁護論」『オーウェル研究』第23号、12～13頁、2004年4月。

高久田佳津子

「多言語社会における言語使用：一つの言語か、多言語の併存か」『和洋女子大学英文学会記念号 言語・文学・文化的テキスト解題(3)—『サウンド・オブ・ミュージック』探訪—』、34～61頁、2004年7月。

〔国際社会学科〕

青山和佳

「『フィリピンの貧困者の視点』に立つ試みと挫折——ダバオ市のサマの調査を振り返って——」『エコ・フォーラム：特集、貧困への挑戦』No. 22、Vol. 4、統計研究会、16～21頁、2004年6月。

「バイランの輝く贈り物」『学際』No. 14 (編集代表：宮川公男、(財)統計研究会内) 85～89頁、2005年2月。

伊能武次

「エジプト—知られざる福祉の姿」『NHK社会福祉セミナー』2004年10-12月号、122～125頁、2004年10月。

「政権と開発戦略—国民民主党指導部の再編を中心にして—」山田俊一編『エジプトの開発戦略とFTA政策』研究双書No. 542、アジア経済研究所、125～149頁、2005年2月。

「冷戦後におけるナイル川流域の国際秩序の再編—エジプトの水政策を手がかりにして—」清水学・伊能武次『国際河川を巡る政治経済学的分析—中東・中央アジア—』一橋大学Discussion Paper # 2004-6、7～23頁、2005年3月。

金丸裕志

「シンガポールの市民社会とNGO—政府との関係における三類型—」『(報告書) 福岡発・アジア太平洋研究報告』第13巻、64～73頁、2004年11月。

鷺見八重子

第8章「衣装で読む現代女性作家たち—脱ジェンダー—〈モード〉で生きる」『〈衣裳〉で読むイギリス小説—装いの変容』(共著)、ミネルヴァ書房、2004年6月。

藤丸麻紀

「少子化対策の経済効果」『和洋女子大学紀要』(人文系編) 第45集、85～99頁、2005年3月。

三浦俊彦

『心理パラドクス』二見書房、2004年10月。

「人間原理的推論における「この宇宙」」『科学基礎論研究』第103号、79～86頁、2005年3月。

「「強い人間原理」のための8つの要請」文科省科研費 基盤研究B(1)課題番号13480002
『「宇宙論における人間原理に関する自然哲学的研究」(代表：横山輝雄) 報告書』、79～86頁、2005年3月。

〔発達科学科〕

高野 俊

「明治初期女児小学の研究—近代日本における女子教育の源流—」博士学位論文、日本大学、2004年6月。

「『教育令』期における宮城県の裁縫教育の定着過程」『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、101～116頁、2005年3月。

若尾良徳

「青年のアタッチメントスタイルとパートナーとの相互作用場面における自己報告及び、行動に表出された不安との関連」『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、117～129頁、2005年3月。

〔外国語教育研究センター〕

清川英男

「英語授業におけるCALL教材の効果と可能性」（共著：河内山有佐・服部久美子）『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、59～70頁、2005年3月。

河内山有佐

“Politeness Strategies by Japanese Undergraduate Students : Focusing on Disagreeing Responses”『サウンディングズ英語英米文学会誌Soundings』第30号、97～112頁、2004年10月。

「英語授業におけるCALL教材の効果と可能性」（共著：清川英男・服部久美子）『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、59～70頁、2005年3月。

服部久美子

「英語授業におけるCALL教材の効果と可能性」（共著：河内山有佐・清川英男）『和洋女子大学紀要』（人文系編）第45集、59～70頁、2005年3月。

村田 年

『電子辞書活用ハンドブック2005』（監修）カシオ教育研究所、160頁、2005年3月。